

第 63 回流域委員会資料 資料 4 の訂正について

「第 63 回流域委員会資料 4：武庫川水系河川整備計画（原案）等の論点に関する意見書（その 4）」について、事務局の手違いで中川委員の意見書（1 ページ目）の中に誤字が挿入（赤字箇所）されていたので訂正をお願いします。なお、武庫川流域委員会ホームページに掲載している資料は訂正済です。

堤防強化に関する提案

2010 年 6 月 29 日
委員 中川芳江

整備計画における堤防強化に関して、第 61 回武庫川流域委員会にて発言を省略した意見、及び現状分析に基づく提案を提出します。河川管理者におかれては、原案修文の際の参考にして下さい。あわせて、今後の審議のために第 61 回に話題となった治水と都市景観のトレードオフに関する意見を提出します。

1、 原案修文に関わる事項（主に発言省略事項）

1. 1 堤防強化の技術的課題（第 60 回資料 4-1 の 37 番について）

堤防強化の技術について、特に対越水型の堤防強化技術が未確立、正確には、河川管理施設等構造令で認められた新しい実証的強化技術が未確立、という課題がある。この点は、これまでの審議で県が回答してきたように、県単独の技術開発力によって実証的技術確立を研究することは人的、資金的にも制約が大きく、現実的に困難という主張は理解する。しかし、武庫川において、越水に対する対策が求められていることに変わりはない。

従って、大きな人口・資産を抱える武庫川においてはこれらの実証的技術確立が急がれることを課題として認識（明記）した上で、それに基づき国・研究機関に対して ~~早~~早期の実証的技術確立の努力を求めて頂きたい。堤防強化の技術開発はすでに課題として国でも認識されており（「水災害分野における地球温暖化に伴う気候変化への適応策のあり方について（答申）」2008 年 6 月国土交通省社会資本整備審議会）、具体的な要求を地方から挙げていく段階にある。

また、修文までは求めないが、常に新しい技術の活用を視野に入れておく姿勢を持ち続けていて欲しい。例えば、複合型堤防には景観課題と堤防補強をある程度両立できる技術があるかもしれず（一例を挙げればハイブリッド堤防という技術提案もある）、その探索を惜しまず努力されたい。

1. 2 超過洪水対策としての越水対策（原案 P46 4～5 行目）

今回、一部を対象に H.W.L. 以上の対策を明記していることは評価しているが、堤防決壊の原因の 8 割が越水であることを考えると、意識的な越水対策は考えておかざるを得ない。そこまで水がくるのだろうかという発想ではなく、来た時にもなんとかしのぐためには、という発想で取り組んで頂きたい。

その点において巻堤の検討は大いにやって頂きたい。ただ、一般的な巻堤をそのまま築堤区間に持ち込むのは景観上の課題も容易に想像できるので、技術的工夫に挑戦して欲しい。具体的な区間は今後の検討に委ねざるを得ないが、減災対策検討会で私から提案した市街地側のリスク評価の考え方も念頭において検討できないか一考願いたい。

堤防そのもののリスク要因としては、橋梁、旧河道箇所等さまざまな要因があり、それらと市街地側のリスクとの複合的なリスクの観点である。このこと自体は減災対策の今後の課題でもあるが、超過洪水対策としての越水対策を考えるのであるから、巻堤の検討時には市街地側との関係を含めて検討して頂きたい。修